



2012 年秋冬号
季刊 No. 96

特定非営利活動法人「秋田県コスモスの家」
〒214 0034 川崎市多摩区三田二丁目五之三
TEL 〇四四-九三三-二四二五 FAX 九三三-二四四二

第9回 日本地域福祉学会 地域福祉優秀実践賞を受賞!

地域福祉優秀実践賞は、少子高齢社会を迎えるにあたって、地域住民が安心して暮らせる福祉コミュニティ構築が我が国の早急の課題となつて

るため、全国各地で行われている「住民が主体的に地域課題を解決している優れた地域福祉実践」に日本地域福祉学会が表彰するものです。学会の全国大会で用いられた資料から抜粋したものを紹介したいと思います。

今回、コスモスの家が評価された点は、

「23年間にわたって、地域住民のニーズから出発した事業を展開しており、とりわけ、『孤立した人を作らないこと』をミッションとして、今日深刻化する団地に住む高齢者の孤立の問題に早期から取り組み、実績を積んでいる」ことでした。「制度ではなく、地域のニーズ」に基づいて事業を展

開しており、コスモスの家が実施した2回の三田地域調査は、地域の将来像を構想する上で重要な役割を果たしました。主たる事業である介護保険事業のみに留まらず、まちづくりに視点をおいた事業展開は先駆的な地域密着型NPOだと評されました。

また、行政、企業、大学、民間福祉事業所、自治会・管理組合、地域住民など、事業や活動を通して培ったネットワークを活用して、地域課題解決に向けた取り組みを実施していることも評価された点でした。

大きな資本などを持たないNPOにとって、地域の思いや力を結集させて自分たちの地域を作っていくという視点は非常に重要であり、今後も求められます。最後に、こうした実践の積み重ね



日本地域福祉学会会長より
表彰される渡辺理事長



によって「年間1億円近い予算の事業を住民が運営することにより、地域の雇用創出に貢献していることも特筆すべき点」だとしています。今日の地域・社会は、既存の仕組みでは、なかなか解決出来ない課題が山積しています。その中で、地域において自ら雇用を創出し、

地域課題を解決していける地域密着型NPOコスモスの家の存在は、我が国の地域福祉、民間非営利組織、コミュニティビジネスなど、様々な分野でモデルとなるケースだと思えます。

受賞に際して渡辺理事長は、「人口一万三千人余五千世帯の一小学区をエリアに二十三年間地域福祉活動を続けてきて、本当に良かった」と喜びとお礼の言葉を述べ、「自治体行政も消極的になり、「自助・共助」など、「新しい公共」の言葉も聞かれますが、私たちはあくまでも日本国憲法をよりどころに、誰もが住んで良かったと言える三田地域づくりをこれからも進めていきたい」と感謝と決意を語りました。

事務局長 本田和隆記

平成二十四年度

コスモスの家 通常総会開催

昨年起きた3・11東日本大震災・福島原発問題から一年半が経過いたしました。

全国で脱・原発の集会や抗議デモが行われていますが、未だ十万人を超える避難者が苦難の生活を強いられています。

あの未曾有の災害が今日、日本のいつ、どこで起きても不思議ではない現実を冷静に受け止め、東日本の速やかな復興を支援し、安全に安心して住める地域社会の建設と人間が大切にされるまちづくりを進めなくてはならないと思います。



去る6月17日(日) NPO法人・秋桜舎の平成24年度通常総会が開かれ、介護保険の改悪に対して全国的に広がった活動に参加した報告、三田地域調査研

究会の「孤立しないまちづくりー緊急災害時に備えて」の地域集会など、各事業からの報告があり、それに伴う決算報告、監査報告が承認されました。

★9事業・一億を超える活動予算を決定

平成24年度は、新たに保育園事業が加わりました。

民間企業が撤退した後、地域住民の要望にコスモスの家が応える形となりました。

今年度は、早い時期から総会に向けての活動計画と予算作りを開始いたしました。

介護保険の見直しが厳しくなることを見越して、事業時間の延長等を検討、議論し、あくまでも利用者、家族、地域のニーズに添えていくこととして、各事業の活動計画と予算作りがなされました。

子どもからお年寄りまでを対象に24年間地域福祉活動に取り組んできたコスモスの家に保育園事業が加わり、文字通り乳幼児から高齢者まで安心して暮らせる「まちづくり」を展開していくこととなります。

また、介護保険事業では、支援Ⅰ・Ⅱのケアプランを引き受け、たとえば一人暮らしであろうと認知症であっても、元気で自立した生

活を送るための支援を行っていくという方向を確認しました。

その他の事業展開としましては、

●生涯学習会めだかの地域大学の継続・発展

●高齢者福祉に関する情報提供事業

三田ふれあいセンター・コスモスの家のネットワーキング

●認定NPO法人化に向けた寄付事業活動

2011年に特定非営利活動推進法(NPO法)と寄付税制が改正され、日本のNPO法人が寄付を受けやすくなり、認定NPOになる基準が緩和されました。

今後、事業のみに頼らない運営を目指すためにも法人事業の意義や理解を高め、多くの寄付金を募り、認定NPO法人化を目指します。また、「孤立しないで安心して生活をする」ための地域調査活動から生まれたネットワークを生かし、近隣の明治大学園田研究室をはじめ、町会、自治会と連携し、23年間培ったコスモスの家の信頼とネットワークを広げ、発見した地域の課題をひとつひとつ解決できる活動を目指します。

コスモスの家理事長 渡辺ひろみ記



法人認定に

ついて

NPO法人のうち、一定の基準を満たすものとして認定を受けた法人は、認定NPO法人となり税制上の優遇措置を受けることができます。

一定の基準とは

- ① パブリック・サポート・テスト（PST）をクリアしていること
- ② 運営組織及び経理が適切であること
- ③ 情報公開を適切に行っていること等が主な内容です。

パブリック・サポート・テスト（PST）

とは市民から幅広く支持されているかどうかの判定基準であり、次のいずれかを満たしていればクリアすることができます。

- ① 寄附金収入が総収入の20%以上あること
- ② 3千円以上の寄附者が年平均100人以上いること
- ③ 所在地の自治体の条例で個別指定をうけていること。

認定NPO法人に与えられる税制上の優遇措置とは？

- ① 寄附者個人に対しては所得税で（寄附額－2千円×40%）、個人住民税で（寄附額－2千円×10%）が税額から控除されます。

認定NPO法人自身にも（みなし寄附金）という制度により法人税の軽減措置があります。

認定NPO法人となった場合のメリットとしては、税制上の優遇措置のほかに寄附金による財政基盤の強化、法人に対する社会的信頼性の向上、行政等が実施する様々な制度・施策等において認定法人であるかどうか判断基準となる可能性が大きい等が考えられます。

コスモスの家としては、去る6月総会において認定取得を目指すことを決定しており、今年度は認定基準のうち最重要項目であるPST判定基準のクリアを目標に寄附者の拡大に着手いたします。

法人スタッフはもとより、ボランティア、一般地域住民の皆様の幅広いご支援をお願いいたします。

事務局 大島清年記

だんだんぞ 汁の会

昨年から開催している「だんご汁の会」。

この会は一昨年三田地域で実施した「孤立しないで安心して生活するための調査」でお盆や年末に一人で過ごす」と答えた方が全体の9・2%だったため、一人で過ごす高齢者の方のために何かできないかと考え、具体化された催しです。

今年も生田中学校特別創作活動センター内の調理室で開催、生田中学校の生徒、校長先生、教頭先生、明治大学の園田教授、学生、コスモスの家スタッフ、近隣の高齢者の方がたくさん参加してくださいました。

6名の中学生が参加し、だんご汁をこねるのを手伝ってくれました。食事の後は、中学生が自己紹介の後、高齢者の方にインタビューをしたり、セルシアター、切り絵を披露してくださいました。

進行係の中3の女の子が素晴らしい司会振りで、参加者の皆さんも感心していました。

だんご汁（すいとん）もおいしく出来上がり、男の子はお代わりを所望（笑）していました。

明治大学の学生さんの音頭で「鳥唄」を合唱し、コスモスの家で歌の指導をしてくださっている山崎先生と水野ケアマネージャーの指導で音楽に合わせて体操をして閉会となりました。

世代を超えて、地域の人々が交流する機会を今後も続けていきたいと思います。

藤井さゆみ記



こすもす 保育園だより

10月29日(月)に第四公園へ行き、戸外活



動を行いました。当日は天気にも恵まれ、参加できる保護者も一緒に参加し、半日を過ごしました。リュックサックにお弁当、水筒、おしぼりなどを入れ、「おもい・もてない・・・・」と言いながらみんなで励まし合いながら歩いて行きました。公園では、玉入れやしっぽとりをした後、広い公園で滑り台をしたりブランコをしたり木登りをしたりと楽しく過ごしました。重たい思いをしつつ一生懸命持っていたお弁当は、また格別だったようで残さず全部食べていました。「また、行きた〜い!!」と子どもたちからアンコールがありました。いつもと違う

「特別感」が味わえたようです。楽しい思い出がまた一つできたようで嬉しい限りです。
保育士・上山知世記



*楽しく絵を描いています！

毎月、第一木曜日は絵を勉強する日です。宮前コスモスでミニデイをしていた頃から来てくださっている栗山典子先生は、横浜線の沿線から鷺沼までおいで下さり、時には、皆に書いて欲しいという季節の花の鉢や、切花を抱えてきてくださいます。



その熱意に応えるべくみなさん頑張っていていますが、なかなかコツがつかめずに苦慮していらっしやいます。出来上がりの最後に先生が一彩筆を入れてくださると、見違えるように出来上がります。

いつかは堂々と作品を披露できることを願っています。
板垣尚子記



*お見事！リサイクル手芸

傘布リサイクル手芸第2弾として今度は帽子を教えていただきました。前回のリュックサックに比べ作業工程も少なく単純なのでやりやすかったようです。雨傘布以外でも、日傘やレインコート、服などを再利用しました。



今後も一人一人が自己実現ができる様な企画を考えていきます！

リバーシブルにしたり、飾りボタンリボンをつけるなどアイデアが広がり、素敵な帽子が出来上がりました。

次の達人(利用者さん)には、はぎれを丸く絞ってパッチワークのようにつなぐ敷物を、また他の曜日の達人にはメタリックヤーンを使ったブローチを教えていただいています。

このように手芸のお上手な利用者さんによって先生になって頂いています。みなさん一生懸命に取り組まれてとても生き生きとされています。山口洋美記